

圃場整備事業の経緯

本地区は、中国山脈の標高500mの中山間へき地で、老朽化した高い石垣積の棚田と、農道もない脆弱な農業基盤で、米・わさび・木材等に依存する第2種兼地帯である。年齢別農家人口は平成8年の20～64歳40人（51.3%）、65歳以上38人（48.7%）が、平成15年には20～64歳22人（32.8%）、65歳以上45人（67.2%）と、高齢化も進行している。

平成7年には農中総研より「中山間地域農業の崩壊と再編の論理」をテーマに調査来訪があり「非経済的農業経営」と講評を受けている。

本地区では、平成7年に圃場整備事業に着工し平成14年に完成した。参加農家戸数29戸（総戸数34戸、内農家31戸）で参加率は94%。総事業費は1億9,915万8千円で、地元負担は1,854万4,306円（島根県信連より借入）。償還は平成9～32年の期間。従前地面積は11ha、換地面積9ha（1区画10～15a）。

事業実施にあたっては、換地計画についての権利調整が最後まで難航するなど、完成までの間は決して平坦な道のりではなかった。しかし圃場整備により大型機械の利用が可能になり、100%普及していた歩行式小型トラクターが大型機に更新され（18台）、その他農機も全て大型化指向となった。

平成16年同研究所の追跡調査が実施されたが集落の健全性に注目されたようである。その根拠は、近隣の県・町での他産業就業のチャンス、地区民の勤勉とライバル意識に起因している。反面、若者不在を招く皮肉な結果ともなり、集落の人材不足と集落機能の低下を招いている。他郷に就業の後継者が定年後帰郷し就農するシナリオが模索されている。

圃場整備を契機として集落の多面的機能の維持と特徴ある地区農業の再確認を求めたい。（島根県美濃郡匹見町 渡辺守人

石西地区農業共済組合 理事）

山村に生きる私の楽しみ

中国山脈の真っ只中、見渡すかぎり山また山、その川沿いに点在する集落が私の生活の拠点です。標高は450mに位置し、夏でもクーラーなしで生活できますし、四季折々の変化がまたすばらしい。春はこぶしの花がいっせいに山々に純白の彩りをそえます。この頃になると本職である農作業も全開、仕事に追われだすと気分的に苦しいので、出来るだけ仕事の方を追っていきます。そうすることで不思議と気持ちに余裕がでてきます。夏になると暇をみては川に行き、鮎捕りに熱中します。住む人が少なく、川の上流なので水がとてもきれいです。秋の収穫が終わった頃、山々がいっせいに紅葉し短い秋が終わります。そして私の一番楽しみにしている冬がやってきます。近年は温暖化が進み、だんだんと冬の期間が短くなり淋しくなりました。子供の頃には根雪期間（雪が消えずにいる期間）が3ヶ月余りもあったのに、最近では1ヶ月余りしかなく、おまけに寒中でも雨が降る始末（昔は雪）です。なぜ私がこんなに雪を待ちこがれているかといいますと、猪猟をするためです。猪を捕るためには雪の上についた足跡を見つけて猪の居場所の見当をつけるので、どうしても雪がなくてはならないのです。また冬になると猪の肉に脂がしっかりついて大変おいしくなります。猟の醍醐味は経験した者でないと理解出来ないかも知れませんが、とにかく猪を捕ることだけ熱中します。増え続ける猪の被害対策として、猪の駆除は立派な名目が立ち、胸を張って出かけています。おいしいシシ鍋も又楽しみです。まだまだ山を歩き回れる間はこの楽しみも続きそうです。（島根県美濃郡匹見町 河野裕 農業）

E-mail : konomiti@iwami.or.jp